

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和6年2月2日

事業所名：多機能型事業所フェローLabo

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえ	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・ 体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	○			少し体を動かせたり、適度な距離感を保てるよう座席等の配慮を行ったりしている。	16	4	1	5	少し狭い気がします	利用人数に応じて座席の配置の変更を行ったり、レイアウトの見直しを行ったりしていくことでゆとりをもって活動できるよう配慮していく。
	2 職員の適切な配置	○			アルバイトスタッフを構えることで、子どもたちとしっかり関われる人員を確保するよう心掛けている。引き続き、スタッフの声を掛け合いや目配り、気配りがよりできるとよい。	18	0	0	8		利用人数に応じて、アルバイトの配置等随時行っていく。また契約時には配置スタッフの説明もより丁寧に行っていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	○			視覚支援ツールも活用を行っているが、必要に応じて追加での作成や見直しを行っていく必要があると感じている。	19	1	0	6		用途に応じて最適なレイアウトや視覚支援を取り入れた本人にもわかりやすい説明を心掛ける。(車椅子の利用時の座席配慮等)
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	○			整理整頓を行い、子どもたちがより過ごしやすい環境整備が必要だと感じている。	19	0	0	7		毎朝と子どもの帰宅後に掃除を行っており、今後も継続していく。また、子どもたちが触る場所の整理整頓に力を入れていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	○			1年の方針、目標を掲げているが、振り返りや見直しの機会が必要だと感じている。申し送りノートを活用している。よりアルバイトスタッフとの連携も図っていけるようミーティングの場も作っていく。						申し送り以外にも定期的にミーティングを行い、振り返りや見直しの機会を作っていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			○	第三者による外部評価は行っていない。						
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	○			内部で定期的に勉強会を実施したり、外部の研修に随時参加したりしている。						ケース等を用いて、内部での勉強会をより充実させていく。また、外部研修にも積極的に参加していく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ		わからない
適切な 支援の 提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	○			半年に1回、お電話またはzoomにてモニタリングを行っている。今後は直接保護者様とお話できる機会を増やしていきたい。	25	1	0	0	直接お会いできるが少しずつできてきたがまだ少ないと感じている。連絡帳やお電話、zoom等も活用し、情報共有の機会を積極的に作っていく。 初回の支援計画作成の際は、契約時に丁寧な聞き取りを行う。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	○			出来る限り、具体的な活動内容やかかわり方を記載している。計画に対しての具体的な支援内容の意見を出す機会があるといいと思う。	25	0	0	1	職員間で、個々の発達課題に合わせた活動の立案や支援に関して随時話し合う機会を大事にしていく。また、個別支援計画に基づいた適切な支援や活動の見直しを行っていく。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	○			集団活動(小集団での活動)に関しては、毎月のイベントやレクリエーションの時間の中で取り入れている。子どもたちに応じて、より多くが参加できる活動の提案があるとよい。					子どもたち一人ひとりの成長に合わせた課題・教材の提案を行っていく。小集団で楽しめる活動のバリエーションもより充実させていきたい。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
適切な支援の提供 (続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	○			支援計画に沿った支援を心がけている。子どもたちのやりたいことや成長に合わせた、定期的な見直しも必要だと感じている。	24	0	0	2	申し送りの時間も活用し、定期的 に支援計画の見直しを行って いく。子どもたちの発達段階やニ ーズに応じた適切な支援を心掛 ける。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	○			季節に合わせて行える活動やイ ベント等の立案を行っている。定 期的にグループ全体でのイベン トも開催を行っている。					引き続き、スタッフの強みを活か しながら、子ども達が楽しみなが ら学べるプログラムを立案してい く。
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	○			スタッフの得意分野を活かし、 ICT以外の活動も取り入れている。 (制作活動やお料理イベント 等) ICTの活動も子どもたちの興味・ 関心に合わせて提供していける よう、子どもたちからの聞き取り も行っていきたいと思っている。	19	2	1	4	外出イベントが少ない 特に平日は活動が固定化しやす いので、子どもたちの興味に合 わせた活動の提案を心掛けてい く。またイベント活動やレクリエ ーション活動を取り入れ新しい事 にもチャレンジしていけるよう に工夫していく。
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	○			休日はイベント活動や日中に公 園活動を取り入れている。室内 での活動はマンネリ化しやす いため、知育ゲームなども取り 入れながら、子どもたちが楽し める活動も提供していく。					特に、長期休暇に関してはプチ イベント等も随時取り入れてい く事で、新しい事にチャレンジ したり、楽しんだりできる機 会をも受けていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	○			毎日申し送りノートの活用と、 適宜口頭での確認を行っている。 アルバイトスタッフへの情報共 有をより強化していく。					引き続き、申し送りノートと口 頭での情報共有の時間を作って いく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	○			毎日の申し送りノートや日報で の共有、また翌日口頭での申し 送りの時間確保を心掛けている。					引き続き、申し送りノートと口 頭での情報共有の時間を作って いく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	○			活動記録への記載を行っている。 支援の検証・改善の時間は 今後定期的に時間を作ってい きたい。					申し送りの時間も活用し、支援 の改善を図っていけるよう努 める。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	○			契約時の聞き取りや半年に1回 モニタリングを実施し、計画の 作成、見直しを行っている。					半年を待たなくとも、適宜で 個別支援計画の見直しは行 っていく。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	○			学校、関係機関からの要請に応じて、随時担当者会議への三アを行っている。子どもの状況を事業所内でしっかり把握できるように会議前にはスタッフ内での情報共有も行っていきたい。						今後も、学校、関係機関からの要請に応じて、随時担当者会に参加する。	
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施				該当者なし							
関係機関との連携（続き）	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備				該当者なし							
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有			○	相談員さんとの情報共有は行っているが、幼稚園や学校等とは、十分に行うことはできていない。学校とは支援計画を共有するなど、連携を図ることが必要だと感じている。							適宜必要な関係機関と連携を図っていく。
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	○			他事業所との連携は、必要に応じて行っている。							適宜必要な関係機関と連携を図っていく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進		○		専門性の高い講師の外部研修を受講したりはしている。児童発達支援センターとの連携は不十分なので、必要に応じて連携を図っていきたい。							児童発達支援センターとの連携は不十分なので、必要に応じて連携は図っていきたい。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	○			地域の子ども達と触れ合う機会を作るよう秋祭りやクリスマス会を開催した。今後も積極的に地域に開かれたイベントや交流の機会を作っていきたい。	9	1	3	13			引き続き、休日の公園活動や、イベント等で、地域の子と触れ合う機会を設ける中で、相互理解に繋がるよう努めていく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	○			地域に向けや秋祭りやクリスマス会を開催した。引き続き、地域の方にも参加いただけるイベント等も行っていく。							継続して、地域の方も参加できるようなイベントを企画・実行していく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	○			契約時に丁寧に説明するよう意識している。	25	1	0	0		引き続き丁寧な説明を心掛ける。 必要に応じて、個別にご説明させて頂く等の対応もしていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	○			随時丁寧に説明するよう意識している。	25	1	0	0		直接お会いしてのモニタリングを増やしていき、説明不足とならないように、日々の連絡帳等でもご様子を丁寧に伝えしていく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施			○	ペアレントトレーニングは不十分である。今後、家庭でのお子さんとかかわり方等の相談・助言も積極的に行っていきたい。	7	5	5	9	ペアレントトレーニングと呼べるのかわかりませんが、通所した時の連絡ノートを通して子供の行動の捉え方を保護者と事業所で共有して勉強さ	今後は、しばらく実施出来ていない保護者勉強会等も開催・活用しながら、ペアレントトレーニングを充実させていく。
保護者への説明責任・連携支援	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	○			モニタリングや、お電話、連絡帳等でのやり取りに共通理解を図ろうと意識している。学校、家庭、他事業所ともより連携を図ることが必要だと感じている。	22	2	1	1		半年に1回のモニタリング、日々の電話や連絡帳でのやり取りにて、共通理解をはかっていく。また、必要に応じて学校や他事業所等の関係機関との連携も図っていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	○			日々、お電話や連絡帳、送迎時などのやり取りにて相談を受けることがあるが、スタッフの相談援助のスキルを身に付けていくことが必要だと感じる。	19	4	1	2		送迎時は、保護者様とお話出来る貴重な機会ではあるものの、ゆっくりとお話出来ない為、連絡帳やメール、お電話を活用した情報共有や直接お話しできる機会を増やしていきたい。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援			○	保護者会の実施はできていないが、講師をお呼びし、事業所内外どちらの方も参加できる講演会の開催を行った。(スマイルフォーラム)	3	5	8	10		保護者の方も一緒に学べる研修会や座談会を計画していく。同グループ内の見学会等、自社が提供できるサービスに関して知ってもらう機会を設けていく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	○			苦情に関しては、社内の仕組みに添って対応している。	17	0	2	7	保護者への合理的配慮が必要な場合のその理解が甘いと感じた。	事業所共通の決まりと合理的配慮として対応が可能なところの見直しを行っていく。 社内の仕組みに沿って、迅速かつ丁寧な対応を心掛けていく。起きたミスに対する事業所としての今後の対応は、保護者様にも丁寧に説明する事を意識していく。また再発防止への取り組みも徹底していく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
(続き)	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	○			日々、お電話や連絡帳、送迎時などのやり取りにて相談を受けることがあるが、スタッフの相談援助のスキルを身に付けていくことが必要だと感じる。	20	4	0	2	今後は、しばらく出来ていない保護者勉強会等も開催・活用しながら、ペアレントトレーニングを充実させていく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	○			毎月1回日々の活動の様子を載せたLaboだよりを作成、配布している。 SNS (Instagram、Facebook) でも、子ども達の活動の様子を投稿していきたいと考えている。	24	1	0	1	引き続き、子ども達の活動の様子をよりしっかりと伝えられるようにHPやSNSの更新、Laboだよりの配布等に努めていく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	○			契約時、または1年更新で、個人情報開示に関する聞き取りを行っている。	22	0	0	4	個人情報の取り扱いに関しては、保護者様からの聞き取りを元に、慎重に取り扱っていく。(SNS、チラシ等)
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	○			職員は定期的な確認を行い、保護者様には契約時に説明を行っている。今年は避難場所の見直しも行ったためメールにて再度周知を行った。	17	3	1	5	契約時の丁寧な説明を心掛け、事業所での対応も保護者様に発信していくよう努めていく。また安心してご利用いただけるよう定期的に周知を行っていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	○			スタッフは年3回行っている。うち2回は子どもたちと一緒に実施している。	20	1	0	5	引き続き子どもたちとの避難訓練を継続して行っていく。より多くの方にご参加いただけるよう、しっかりとご案内を行い、実際の様子はLaboだより等で保護者様にもお伝えしていく。
非常時等の対応(続き)	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	○			社内で虐待防止委員会を設置し、定期的な外部研修を行っている。また、年1回以上、外部研修を受講している。					引き続き外部研修、部署内研修等を行う中で、虐待防止に努めていきたい。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	○			個別支援計画に記載している。身体拘束があった場合は保護者様への説明と記録を合わせて行っていく。					引き続き、個別支援計画への記載と記録を残していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	○			契約時にヒアリングを行い、おやつ提供時やお料理イベント時には、出来る限りの配慮を行っている。					引き続き、契約時にヒアリングを行い、おやつ提供時やお料理イベント時には、出来る限りの配慮を行っていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標					
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点					はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	○			事故やヒヤリハットが起こった場合は、ヒヤリハットのフォーマットに記録し、社内で共有する事に行っている。	/	/	/	/					今後もヒヤリハットの事例を重ね、スタッフ間で対策を考え実施していく中で、安心安全に利用してもらえる事業所にしていきたい。